

時まで寫しなはる」余曰く「さア二時頃までかかるでせう、」「さうかえ、それでも午ヒルになる」と潮が引きますよ、」自分は啞然たらざるを得なかつた。

若し此言を聞かなかつたら、かの面白い帆柱や、綱のうつつて居る影を、あたり月のために奪ひ去られるのだつた。

感謝を以つて彼等を眺めた自分の眼は、彼等の凹凸多き剛然たる顔面筋肉の内に、隱然として潜んで居る朴柄な親切や、優しみを、認める事が出来た。「南風」ではないが、自分も何時かは、この恩ある親切な、漁夫を繪にして見やうと思つた。

自分は此入江へ來た時から、畫を描き終るまで。かのデヨーヂ、エツチ、バウトンの荷蘭寫生旅行中の一節、丁抹のカトウキクを想像して、何だか此所の様な景色じやないか知ら、と思つた。(寫生日記の一節)

我水彩畫の歴史 (上)

信濃上田 矢ヶ崎 天民

いつであつたか、四辻の或人家の横の板塀

ここはいつも廣告貼場になつて居るので、糊のついたところだけはげずに紙が残つて長方形の横のや縦のや、赤いのや青いのやいろいろの輪廓だけ死骸を止めて居る、其中に今貼られたばかりと思はれる大きな廣告には、筆太に宗教大演說會、辯士誰々、時間何々、會場何々教會とある。暇ではあつたし、二つには其辯士が有名なので出掛けていつたことがあつた。

金、名譽、戀、怒、等の相競ふて居る境に行く道は廣くして平坦であるが、信仰に入る道は狭くして峻しい、それで信仰に入るには、懺悔だとか信念とかえらくむづかしいことを、いくつか經なければならぬなどと聞いた様に覺へてゐる、其演說を聞いて成程なアとは思つたがその爲精神上の動機となつてクリスチヤンになつたてなし、別に變りなく翌日もやはりパンを得るに床からぬけだした。

ところが偶然水彩畫を始めようと云ふのでいよいよ其門にはいつて見ると、これは宗教などと異つていよいよ信仰にはいつてからの苦行が大變なものだ、實に自分にとつ

ては釋迦が雪山で難業苦行をしたよりも上だつた、と云ふとそんなに苦しいのなら畫家にはなるまいなどとふるへる人があるところ。

變手古なものが出来ておかしくて堪らないのだ。

先づ彩料を買ふ前に二つの關門を通過したそれはなんだと言ふと、

第一に自分のゼニアスを疑つた、

はたして自分に繪がかかるかどうかと言ふことだ、いろいろ總合してみた、生徒時代のとき、あの繪を描いたら七十點であつたけれど次の繪は九十點であつた、校庭の立樹を寫生したときは乙であつたが、花瓶を寫生したときは甲であつた、などと思ひ出して見て、これは天才とまでは行かなくても普通の人位にはかけるだろうと云ふので第一關門は無事通過。

第二には水彩畫とはどうして描くものだからどんな繪具でやるのか、曾て教はつた事もないけれども聞いたこともないので、此處で一才躊躇した、けれども早通本屋へ行つて水彩畫について何か書いた本はないかと言ふ

と、出してくれたのが大下先生のかかれた水彩畫階梯と言ふのだ、其晩はそれと首引をした。

翌日はまた早速繪具と繪葉書臺紙を二十枚ほどとちてあるのを買つて來た。

もうこれで天下一品と言ふ名作が出来るつもりだ。(續出)

紹介

◎みどり第一號

横濱みどりの會の機關雜誌にして、全部謄寫版、會報會員の奇稿を満載せり、少數の幹事でこれだけの雜誌を出すのは其勞容易ならざるべし(非賣品、横濱尾上町島醫院内みどり洋畫會發行)

◎四星霜

宮澤 白榆著

本郷區湯島切通坂町 宮澤 書店

四六版二七〇頁五十錢

巻頭の長篇小説ワセダは、著者苦心の跡を見る、藝術によつて救はれたる主人公の経路も極めて自然であるが、あまり新しき形式に苦心して文章に不熟の點あるは惜むべし。口繪は洋風挿繪家戸張孤雁氏の筆に成

り本書に一段の光彩を添へたり

◎アフリカ
ヨーロッパ
アメリカ 寫生旅行 吉田 博著

小石川久堅町 日本葉書會

菊判美裝三七五頁上製壹圓五十錢

原色版三枚、寫眞版二十二枚は何れも著者及び吉田ふじを女史の筆に成りし油繪水彩

等にして、これのみにても美術愛好者に推薦する價が充分ある。本文は極めて平易なる口語體にて著者と共に夫からそれへと樂

しき旅路をゆく心地がせらるゝ、觀察に興味多きは、他の海外漫遊者の企て及ばざる

處ならん、卷末日本の水彩畫の項に「日本の水彩畫家は繪を描きたいと考へずに水彩畫を描きたいといふ人ばかり」と云はれてお

るが、今日ではそんな人はあるまい、其小品のみ多くして努力の少ないのを責められ

たが、これは實に其通りであつて、吾々が

大に反省すべき點であらう

◎方寸第二卷第二號

此號は故淺井忠氏の追悼號にして石版には大原女ロンドン公園、馬蹄香、日本茶、十

二月等あり、寫眞版には晚歸、旅順の搜

索、年禮、グレの秋、小丹波、繪著書等あり、記事には石川欽一郎、和田英作、都鳥

英喜、石井滿吉、露石、瓦全、白羊諸氏あり、他に雪のバルビゾンといへる書簡一通

をのせたり(十二錢本郷區千駄木林町方寸社發行)

◎成功の失敗

松岡 正男譯

小石川小日向臺町 家庭の友社

四六判四號組五三頁二十錢

本書はバブコツク博士の The Success of Deafatを譯されし者にて、世俗的成功の決

して眞の成功にあらざるを説き、失敗は或る意味に於て大なる成功なる事を懇切に説

明せられたり。吾人はかゝる書の出版せられんことを願ふと共に、出來得るだけ價を低廉にして況く世に頒たれんことを發行者に

望まざるを得ず。

日本水彩畫會新々友

廣島市第三高等小學校

西 勝 一

札幌北一條東四丁目九、寺田方

福井 善吉